

改訂に伴いランクが変更になる抗菌性物質とその理由

今回の改訂に当たって変更した内容とその理由は以下のとおり。

抗菌性物質名又は系統名	変更内容	変更理由
イミペネム／レレバクタム	Iに追加	レレバクタムが、現行唯一 KPC（カルバペネマーゼ）に対して有効であり、代替薬が存在しないと考えられるため。
フィダキソマイシン（18員環構造を有するマクロライド系）	Iに追加	2014年以降新たにヒト用治療薬として承認された抗菌性物質。Clostridium difficile 腸炎の治療に内服で用いられる抗菌性物質で、代替薬が存在しないと考えられるため。
ストレプトグラミン系に属するもの	IIから削除	市場流通するヒト用抗菌性物質が無くなったため。
アストロマイシン系	IIIから削除	市場流通するヒト用抗菌性物質が無くなったため。
深刻な疾病の原因菌に対して抗菌活性を有する新しい抗菌性物質	Iから削除	現在のランク付けに含まれない新たな抗菌性物質が今後承認販売される場合は、随時WGでランク付けの改訂を検討することで対応可能なため。
オゼノキサシン（キノロン系）	「キノロン系に属するもの（フルオロキノロン系に属するものを除く。）」から個別の名称の記載へと修正し、ランクはIIIを維持。	いくつかの抗菌性物質が販売中止されたことで、現在国内で販売されているものがオゼノキサシンのみとなったため、限定する記載に修正。
β -ラクタマーゼ阻害薬が配合されたもの	（前回の合意事項）一括でIIとしていたランクを、個別にランク付け	審議中
<ul style="list-style-type: none"> ・クラブラン酸／アモキシシリン ・スルバクタム／アンピシリン（トシル酸スルタミシリン） ・タゾバクタム／ピペラシリン 	（前回の合意事項）「 β -ラクタマーゼ阻害薬が配合されたもの」から個別の名称の記載へと修正し、ランクはIIを維持。	審議中 （クラブラン酸、スルバクタム及びタゾバクタムについては、 β -ラクタマーゼの阻害効果が、主にTEM-1、SHV-1やこれらに近いものに限定されており、ESBL、AmpC等には阻害活性が弱く、他にも安定的な薬剤が存在するため。）
<ul style="list-style-type: none"> ・セフトロザン／タゾバクタム ・セフォペラゾン／スルバクタム 	—	審議中